

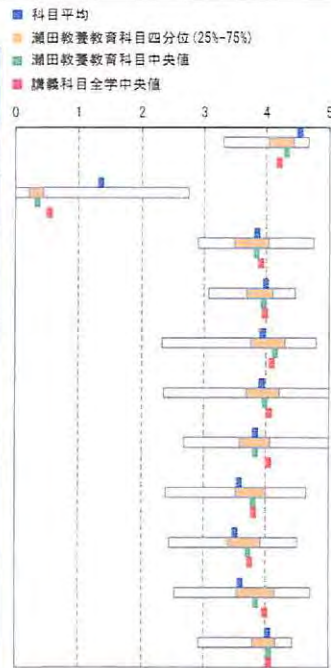
■2013年度第2学期 学生による学期末の授業アンケート集計表

■科目区分 講義科目
 ■科目名称 GUK5002300 生活の中の統計技術
 ■曜講時・時間割番号 水3U33N042
 ■担当者名 10 樋口 三郎

■集計表の見方

- アンケート回答の平均は、回答5×5/回答4×4/回答3×3/回答2×2/回答1×1/回答0と無回答は0で加重平均しています。回答0/無回答は件数に含まれていません。
- 教員個別設問は、無効/無回答の値が70%以上の場合空白としています。
- 無回答は、重複マーク、マーク未記入のデータです。
- 25%点及び75%点は、最小値から構成比25%及び75%にあたる平均点です。
- 中央値は、各科目平均の中心の値で平均ではありません。
- 受講登録者数は、11月末日現在のデータで履修辞退者を反映していません。
- 「★あなたはこの授業にどの程度出席していますか」の回答選択肢は、次のとおりです。
 (5) 毎回出席 (4) ほぼ毎回出席 (3) 2/3以上出席 (2) 半分以上出席 (1) 半分以下の出席 (0) たまに出席
- Q1の回答選択肢は次のとおりです。(5) 180分以上 (4) 120分程度 (3) 90分程度 (2) 60分程度 (1) 30分程度 (0) しなかった

アンケート内容	全く そう思う 5	そう思う 4	どちらでも ない 3	そう 思わない 2	全くそう思 わない 1	回答できな い 0	無回答	平均
★ あなたはこの授業にどの程度出席していますか。	50	16	5	3	1	0	0	4.5
Q1 1回の授業に対してどのくらい予習・復習を行いましたか。(平均)	0	0	0	8	19	45	3	1.3
Q2 あなたは意欲的にこの授業を受講しましたか。	15	38	16	4	2	0	1	3.8
Q3 この授業はシラバスにそって計画的に進められていましたか。	18	35	13	3	1	5	0	3.9
Q4 この授業で教員の話し方ははっきりと聞き取りやすかったですか。	19	36	14	5	1	0	0	3.9
Q5 教員はわかりやすい授業をする工夫をしていましたか。	18	36	17	2	2	0	0	3.9
Q6 授業内容について質問できる機会はありましたか。	15	32	23	4	0	0	1	3.8
Q7 あなたにとって授業内容の難易度は適切だったと思いますか。	12	31	21	9	3	0	0	3.5
Q8 あなたはこの授業を十分理解できましたか。	11	31	19	12	3	0	0	3.5
Q9 あなたはこの授業を受講して満足しましたか。	10	33	23	6	3	0	1	3.5
Q10 この授業に対する教室の広さや、各種設備は適切でしたか。	22	32	14	3	1	0	4	4.0



瀬田教養教育科目					講義科目
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	中央値
3.3	4.0	4.3	4.4	4.7	4.2
0.0	0.2	0.3	0.4	2.8	0.5
2.9	3.5	3.8	4.0	4.8	3.9
3.1	3.7	3.9	4.1	4.5	3.9
2.3	3.8	4.1	4.3	4.8	4.0
2.4	3.7	3.9	4.2	5.0	4.0
2.7	3.6	3.8	4.1	5.0	4.0
2.4	3.5	3.8	4.0	4.6	3.8
2.4	3.4	3.7	3.9	4.5	3.7
2.5	3.5	3.8	4.1	4.7	3.9
2.9	3.8	4.0	4.2	4.4	4.0

■Q9との相関

Q9	★	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q10
あなたはこの授業を受講して満足しましたか。	-0.105	0.177	0.429	0.167	0.496	0.644	0.434	0.734	0.794	0.459

※相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。Q9は何によって説明されるのか、授業のどこを改善すればよいのか、を考える際の参考数値としてご覧下さい。

■自由設問

アンケート内容	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	回答0	無回答	評価得点 (平均)
Q11 -								
Q12 -								
Q13 -								
Q14 -								
Q15 -								
Q16 -								
Q17 -								
Q18 -								

■実施部署 理工学部
 ■キャンパス 瀬田キャンパス
 ■受講登録者数 122人
 ■回答者数 76人
 ■回答率 62.3%

学生による学期末の授業アンケート

授業アンケート集計表の読み方と活用法

龍谷大学では「学生による学期末の授業アンケート」を每学期実施し、回収したアンケートとともに集計表(分析結果の表示方法)を、各教員に返却しています。また、全体集計の統計データについては、インターネット上でも公開し、学生、教職員が自由に閲覧することができます(ただし学内からのみアクセスが可能です)。

※本集計表の読み方と活用方法については、『大学教育開発センター通信 第11号』(2006(平成18)年1月31日発行)に掲載された「授業アンケート集計表の読み方と活用法」にもとづき、大学教育開発センターで一部加筆修正したものです。

ポイント1 評価の読み方(絶対的評価)

学生は、それぞれの質問事項に対して、5段階(5「強くそう思う」～1「全くそう思わない」)で回答しています。集計表には、回答者全員の平均値が項目ごとに記載されています(図表1)。この数値が評価得点(5点満点)で、得点が高く、5に近いほど評価が肯定的なもので、得点が低く、1に近いほど否定的なものであることを表します。

ポイント2 評価の読み方(相対的評価)

同じ評価得点でも、比較する母体(学部や質問項目等)によって、評価得点の中心やバラツキの度合いは様々で、実質的な評価は異なってきます。集計表では、「箱ヒゲ図※」(図表2)を使って、このような相対的な評価を分かりやすく伝えています。これを用いると、自分の授業の項目ごとの評価得点が、学部または講義科目全体のなかでどの辺りに位置するのかを視覚的に読み取ることができます。

※箱ヒゲ図は最小値と最大値、それから3つの四分位点、計5つの点からなりたっています。四分位点とは、全部の観測値(ここでは比較対象科目全部の評価得点)を高低順に配列したときに、全体を4等分するなか3つの値(25%点、50%点=中央値、75%点)のことです。これら5つの点(図表3 表中の値はそれぞれ1つの科目の実際の評価得点)を基準に、自分の授業の評価得点が全体のどの辺りに位置しているのかを読み取ります。

自分の授業の評価得点(紺色の■)が

- (1) 黄色の範囲内に位置する
→他の科目と評価得点がほぼ同じ
- (2) 黄色の範囲より右(白抜きの部分)に位置する
→他の科目より評価得点が高い
- (3) 黄色の範囲より左(白抜きの部分)に位置する
→他の科目より評価得点が高い

サンプルの龍谷太郎先生の科目「人間科学宗教論」では、Q7「あなたにとって授業内容の難易度は適切だったと思いますか。」の評価得点(3.9)を示す紺色の■は、図中の黄色の範囲内(3.4~3.9)に位置します。これにより「人間科学宗教論」は、難易度の適切さにおいて、他の科目とほぼ同じ程度の評価をうけていると考えられるでしょう。さらに詳細に見れば、紺色の■は中央値(3.6)を表す緑の■より右に位置している(他の科目とほぼ同じ程度でも)真ん中よりやや高いということがわかります。

<サンプル>

■2013年度第2学期 学生による学期末の授業アンケート集計表

■科目区分 講義科目
■科目名称 FD12345 人間科学宗教論
■開講時・登録コード 木3 F26
■担当著名 00003 龍谷 太郎

■集計表の見方

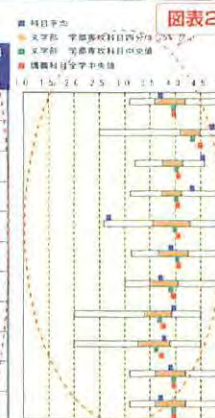
- 1 アンケート回答の平均は、回答5×5/回答4×4/回答3×3/回答2×2/回答1×1/回答0と無回答は0で加重平均しています。回答0/無回答は件数に含まれていません。
- 2 教員個別設問は、無為/無回答の値が70%以上の場合空白としています。
- 3 無回答は、重層マーク、マーク未記入のデータです。
- 4 25%点及び75%点は、最小値から構成比25%及び75%にあたる平均点です。
- 5 中央値は、各科目平均の中心の値で平均ではありません。
- 6 受講登録者数は、11月末日現在のデータで履修辞退者を反映していません。
- 7 「★あなたはこの授業にどの程度出席していますか。」の回答選択肢は、次のとおりです。
(5) 毎回出席 (4) ほぼ毎回出席 (3) 2/3以上出席 (2) 半分以上出席 (1) 半分以下出席 (0) たまに出席
- 8 Q10の回答選択肢は次のとおりです。(5) 180分程度 (4) 120分程度 (3) 90分程度 (2) 60分程度 (1) 30分程度 (0) しなかった

図表1

アンケート内容	強く そう思う 5	そう思う 4	どちらでも ない 3	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	回答でき ない 0	無回答	評価得点 (平均)
★ あなたはこの授業にどの程度出席していますか。	12	31	22	8	1	0	0	3.6
Q1 1回の授業に対してどのくらい予習・復習を行いましたか。(平均)	56	13	4	1	0	0	0	4.7
Q2 あなたは意欲的にこの授業を受講しましたか。	40	26	4	1	0	0	0	4.5
Q3 この授業はシラバスにそって計画的に進められていましたか。	31	33	9	1	0	0	0	4.3
Q4 この授業で教員の話し方ははっきりと聞き取りやすかったですか。	4	7	36	11	16	0	0	2.6
Q5 教員はわかりやすい授業をする工夫をされていましたか。	20	26	26	1	1	0	0	3.9
Q6 授業内容について質問できる機会がありましたか。	12	31	22	8	0	0	1	3.6
Q7 あなたにとって授業内容の難易度は適切だったと思いますか。	19	29	2	4	0	0	0	3.9
Q8 あなたはこの授業を十分理解できましたか。	20	21	26	6	1	0	0	3.7
Q9 あなたはこの授業を受講して満足しましたか。	20	22	32	0	0	0	0	3.8
Q10 この授業に対する教室の広さや、各種設備は適切でしたか。	12	31	22	8	0	0	1	3.6

図表4

図表2



図表3

学部	学部専攻科目	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	中央値
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.1	3.6	3.9	4.2	5.0	3.9
文学部	文学部 大宮キャンパス	2.5	4.1	4.3	4.5	5.0	4.4
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.2	3.7	4.0	4.1	4.6	4.0
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.1	3.7	4.0	4.1	5.0	4.0
文学部	文学部 大宮キャンパス	2.6	3.6	3.9	4.3	4.9	4.0
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.1	3.7	4.0	4.3	5.0	4.0
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.0	3.5	3.8	4.1	5.0	3.9
文学部	文学部 大宮キャンパス	2.0	3.4	3.6	3.9	4.5	3.7
文学部	文学部 大宮キャンパス	2.0	3.3	3.6	3.9	4.5	3.7
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.1	3.6	3.9	4.2	5.0	3.9
文学部	文学部 大宮キャンパス	3.1	3.6	3.9	4.2	5.0	3.9

※相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。09は何によって説明されるのか、授業のどこを改善すればよいか、を考える際の参考数値としてご覧下さい。

アンケート内容	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	回答0	無回答	評価得点 (平均)
Q11 1. あなたは、この授業で教員から学ばせていただきましたか。	31	33	9	1	0	0	0	3.0
Q12 2. この授業から知識を得ることができましたか。	4	7	36	11	16	0	0	3.1
Q13								
Q14								
Q15								
Q16 授業時間外に勉強をしましたか。	20	21	26	6	1	0	0	3.2
Q17								
Q18								

■実施部署 文学部(大宮)
■キャンパス 大宮キャンパス
■受講登録者数 95人
■回答者数 74人
■回答率 77.9%

ポイント3 質問項目ごとの相関

個別の質問項目を他の項目とクロスさせることで、授業改善のための有効な情報を得ることができます。たとえば、現行のアンケートには、授業に対する学生の満足度を問う質問項目Q9「あなたはこの授業を受講して満足しましたか。」が設けてあり、これと他の個別の質問項目(★、Q1～8、Q10)とクロスさせて相関関係を示してあります。それが「Q9との相関」(図表4)です。Q9との相関関係(傾向の等しさを示す値)は、授業の満足度は何によって説明されるのか、授業のどこを変えれば満足度を増すことができるのか、を考える際の一応の参考数値として役立ちます。

サンプルの「人間科学宗教論」では、Q9との相関関係がもっとも強いのは、Q5「教員はわかりやすい授業をする工夫をしていましたか。」(0.754)です。つまり、Q5「教員はわかりやすい授業をする工夫をしていましたか。」に対する評価得点を高めれば、Q9「あなたはこの授業を受講して満足しましたか。」の評価得点が高まるかもしれないということです。そのあと、Q2「あなたは意欲的にこの授業を受講しましたか。」(0.628)、Q4「この授業で教員の話し方ははっきりと聞き取りやすかったですか。」(0.574)、Q1「1回の授業に対してどのくらい予習・復習を行いましたか。」(0.538)という順で、Q9と強い相関関係にあることがわかります。

Q2、Q1に関しては、かなり高い評価得点を示していて、手を加える余地はないかもしれません。でも、Q4の評価得点(2.6)は、学部の専攻科目や全学の講義科目の評価得点よりも低く、「人間科学宗教論」における他の項目よりも評価得点が低いので、Q4「この授業で教員の話し方ははっきりと聞き取りやすかったですか。」の評価得点を高める工夫をすれば、Q9「あなたはこの授業を受講して満足しましたか。」の評価得点を高めるのにもっとも効果的だと思われる。このようなことは、集計表を見ないでもわかると思いますが、目で見える形で確かめることができるところに利点があります。

質問項目ごとの相関関係については、現在のところ、“と

りあえず”ということでQ9と他の質問項目との相関関係の1つを示していますが、授業アンケートの結果をより積極的に活用するために、相関関係を示す質問項目を変更したり、複数の相関関係を表示したりすることは可能です。

授業アンケートの活用

授業アンケートに対しては、依然として賛否両論があります。否定的な意見は、「授業改善には役立たない」「実施されるタイミングが悪い」「実施する回数が少ない」「質問項目が悪い」「集計方法が間違っている」などというものです。

もちろん、このアンケートだけで授業改善を行うことができるというものではありません。このように全学で内容、時期を統一して授業アンケートを行うことの利点は、それぞれの教員が期間比較や授業間比較をすることが可能になるということです。ご自身の年度(学期)ごとの工夫が結果に表れているか、他の教員の授業と比較した場合、学生にどのように見られているか、といったことなどがわかります。そのような観点からご活用いただけたらと思います。

真に授業改善を行うためには、このアンケートとは別にそれぞれの教員ごとに授業アンケートを自ら作成して、複数回にわたり、実施していただくことも必要です。記述式のアンケートを数度にわたり行っていただく、学生からの回答にコメントをしていただくなど、工夫をしたアンケートを実施していただくようお願いします。

また、質問項目の内容、集計方法については、みなさんのご要望を受け入れることができます。建設的なご意見、ご要望を、是非とも、大学教育開発センターまでお寄せください。

授業アンケートは、教員管理、授業管理のために使われることはなく、それぞれの教員のみなさんに授業改善を行っていただくために実施されているものです。その趣旨をご理解いただき、前向きにご活用いただくことを切に希望します。